

平成27年12月15日

萩ものしり博士検定 博士課程受検者 各位

萩ものしり博士検定事務局

第11回萩ものしり博士検定博士課程の解答に関するご報告とお詫び

「萩ものしり博士検定」におきまして、下記のとおり公式テキストの解説及び第11回萩ものしり博士検定博士課程の問題の解答に誤りがあることが判明いたしました。

再採点の結果、受検者の皆様全員について、合否の変更はありませんでしたことをご報告いたします。

ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

○内容と対応

【公式テキスト】P122（問題番号357の解説）

この旗（※）は、ポルトガル語が語源とされる。ちなみにジバンは襦袢（肌着）のことで、これもポルトガル語語源、ラーフルは黒板ふきのことでオランダ語源とされる。いずれも方言として用いられている。

この旗（※）は「フラフ」を指します。「フラフ」という言葉の語源について「ポルトガル語が語源とされる」と記載しておりますが、「オランダ語が語源とされる」の誤りでした。

【第11回萩ものしり博士検定博士課程】問題11

かつて萩地方では、端午の節句に家紋を染め抜いたフラフとよばれる大漁旗状の旗を揚げていたが、このフラフはどこの国の言葉が語源とされているか。

- ①オランダ ②ポルトガル ③スペイン

当初の解答では、②（ポルトガル）を正解としていましたが、①（オランダ）が正解でした。公式テキストでは、「ポルトガル語が語源」と記載しておりますので、本問題は不成立と判断し、すべての解答を正解として採点し直させていただきました。

■お問い合わせ

〒758-0057 山口県萩市大字堀内355番地（萩博物館内）

萩ものしり博士検定事務局 TEL：0838-25-3290 FAX：0838-25-3142

E mail：machihaku_jimu@city.hagi.lg.jp